令和5年度 学校評価計画書

	重点目標に対する具体的取り組み	主担当	現状	評価の観点 達成度判断基準	備考
目点重	標1 「学びに向かう力(主体的に自分の頭で考える)」	を育成する。			
1	自己の在り方・生き方をテーマに入学時から組織的に取り組み,文理選択や進路研究に関するテーマについて時間をかけて丁寧に取り組んでいる。これらの一連の取り組みが「キャリア学習」の集大成として自らの進路目標に対し、どのように考え、取り組み、決定していくのか生徒の行動や判断に期待したい。一方、生徒の様子から覗える課題については、しっかりと振り返り、検証を行った上で、次年度に活かしていく計画にしている。	学年会	キャリア学習として,第1学年では文理選択,第2学年では進路研究をテーマに進めている。自分で調べることや仲間と協働すること,また発表することなど生徒が取り組むことは多岐にわたるが,概ね生徒はよく取り組めている状況である。	A:確実にできた B:概ねできた C:やや不十分だった D:できなかった	
2	各担任による計画的な面談と面談記録の保管は、これまで同様の取り組みを継続していく。また、面談を通じて知り得た情報は必ず学年主任や教育支援室、保健室などに相談・報告をして、情報の共有を図ることを徹底していく。さらに、内容によっては管理職や関係する組織との連携を取り合い、決して教員が1名だけで対応するようなことがないようにする。	学年会 担任	年度初めの面談月間から始まり,各担任は計画的に面談を行っている。面談内容を記録し,本校サーバー内に保管するなど,学年会全体での共有を図っている。	A:確実にできた B:概ねできた	
3	自身の進路目標実現に向けて妥協しない姿勢,心構えを求めていく。そのためにも学習習慣の確立は不可欠なものであり、学年会と連携を図りながら生徒の学習状況の把握に努める。なお、その具体的な方策として朝学習では今年度も引き続きスタディサプリを活用し、生徒自身の積極的かつ継続的な学習習慣を促していく。また、放課後指導については、教職を目指す大学生による『実践型教育体験』を今年度も継続し、質問対応・生徒面談・補習授業への指導と助言などの取り組みを行っていく。	進路支援部	スタディサプリの動画視聴および大学生による放課後指導の取り組み状況は、いずれも継続的に利用している生徒もおり、概ね好評であった。特に、放課後指導に関しては定期考査前の利用率が高く、対応する大学生の人数を増やさねばならない状況であった。	A:確実にできた B:概ねできた C:やや不十分だった	
4	授業担当者は、生徒の実態を踏まえた授業の在り方や教授法を授業公開や研修などで研究し、常日頃から改善を図るよう心掛けなければならない。生徒が「主体的に自分の頭で考える」場が教育活動の至る所で用意されていなければならず、授業はまさにその最たるものであることを認識し、教科内でのPDCAの実践により、教科全体の指導力の向上に繋げていく。	教科会	昨年度より授業公開にあたり、 教科内で、まずは授業の進め方に ついてよく検討した上で実践、振 り返りを行うことにしている。こ れにより授業担当者および参観者 双方が「学びに向かう力の育成」 を主題とした授業としての改善点 を共有し指導力の向上に活かして いる。	A:確実にできた B:概ねできた C:やや不十分だった D:できなかった	
重点目	標2 Sコースおよび特進コースの学力強化を目指し、縦	組織的に取り組み、結果を	出す。		
①	毎年開講している土曜講座に新たに「東大生特別講座」を設定した。これは、希望した生徒に対し現役東大生を講師として迎え、目標の立て方から学習方法を学ぶだけでなく、物事の捉え方や考え方も吸収していくことをねらいとしている。さらに、今年度の新しい取り組みとして「1日学習会」を企画した。これは自学自習に取り組む時間を6時間以上に設定し、生徒に充実感や達成感を体感してもらうことを目的としている。いずれも本校の特色である「面倒見の良さ」を体現したものであり、生徒の更なる学習意欲の向上に繋げていきたい。	学年会教科会	昨年度においても本校の進学実績の中心となるのはSコースや特進コースであった。入学時からの様々な学習に関する企画と、生徒自身の日頃の学習への取り組みと努力が相まって実を結んだ結果ではないかと分析する。今後も、Sコースおよび特進コースの生徒が、意欲的に学習に向き合うための方策を企画・検討していく。	A:確実にできた B:概ねできた C:やや不十分だった D:できなかった	
目点重	標3 スクール・ミッションおよびスクール・ポリシーの	の作成を契機として,本校	のあり方を振り返る。		
1	今年度より「スクール・ミッション、スクール・ポリシー研究」を担当するプロジェクトチームを新設した。新しい社会状況や生徒・保護者の変化を踏まえ、教育活動全般を見直すことは必要なことである。そこで、スクール・ミッション、スクールポリシーを作成していくプロセスは今後の本校のあり方を検討していく格好の場であり、「学習指導」・「特別活動」・「課外活動」など全ての教育活動の点検を行っていく良い機会と捉えたい。また、この見直しが本校の進める「新学習指導要領」における「観点別学習状況の評価」と相まって、より完成度の高い評価方法に昇華することを目指し、追究していく。	教科会	新設された「スクール・ミッション、スクール・ポリシー研究」については担当者から定期的に発信が行われる計画となっている。また、昨年度、本校独自のものとして導入された「観点別学習状況の評価」については、どの教科・科目についても取り組むことを前提とし、導入後の課題点については時間をかけて議論していく予定にしている。	A:確実にできた B:概ねできた C:やや不十分だった	